

みつぎ便り

123号
12月号

板橋区役所みどり公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成28年12月1日 <http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>



ハツユキカズラ

池の東側の花壇にハツユキカズラを植えました。ハツユキカズラはつる性植物のテイカカズラの園芸種で、葉に白い斑が入ることから初雪と名付けられました。新芽の時は赤みの強い淡いピンク色で徐々に白みが強くなり、ついで白と緑色の斑点が混ざった姿となり最終的に緑一色になります。春から秋にかけては非常にカラフルで美しい姿が楽しめます。花期は五、六月で白色の花冠は五列して船のスクリュー状に平開しますが、花

が着くことは稀ですので、つるや葉の色を楽しむ植物です。

テイカカズラの名は歌人の藤原定家に因んだ名前です。定家が恋焦れながらも、思いの届くことのなかつた後白河帝の第三皇女・式子内親王のお墓が、定家のお墓の程近くにあり、定家が葬られた直後に定家のお墓からつるが伸び、式子内親王のお墓に達すると細かい葉を茂らせてお墓を覆い尽くしたとのことです。人々は定家の思いが遂げられたと噂し、このつるを定家葛（テイカカズラ）と名付けました。

(薫)

ヌマチチブ (ダボハゼ)

昔も今も、子どもたちの間では、ダボハゼが一番人気な魚です。なぜなら小さい体の割に大きくずんぐりと丸い顔が、ユウモラスな姿に写るからでしょう。泳ぎ方もゆっくりで、体がくねくねとしながら移動する姿がなんとも、いやされます。

実は「ダボハゼ」という呼び名は俗称で、正式には「ヌマチチブ」といい、ハゼの仲間です。この魚の、体長は大きくても八



cm位で、あまり大きくなりません。雑食性で池底の泥の中にいる昆虫などを食べ、餌の少ないところでは藻なども餌にします。

夏には、子どもたちが池の岸に魚取りの網を入れて、このダボハゼを捕まえている姿を見ることがあります。こんなので、捕れるのかと思っていると、見事に小さなエビやダボハゼが入っています。臆病でそのくせのんびりやのダボハゼを家の水槽で飼って観察するのもいいかもしれません。

(圭)

今年もありがとうございました